

深海研究室 発足会のご報告

潜航地点



水深1500メートルで行われる実験内容が決定！

ニュートンでは、「独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）」の共催により、「深海研究室」を進めています。読者からアイデアを募集し、水深1500メートルで科学実験をしようという企画です。実験で使われるのは、世界有数の能力を誇る有人潜水調査船「しんかい6500」です。

昨年誌上でお願いした募集に対し、読者の皆様にはたくさんの実験アイデアをご応募いただき、ありがとうございます。

1月13日には、実験アイデアをご応募いただいた読者の中から選ばれた「読者参加者」が、自分のアイデアを発表

する深海研究室発足会が開催されました。それぞれの発表に対して、「しんかい6500」運航チームの方々など専門家からアドバイスや質問が多数出され、参加者は深海への理解を深めることができました。

アイデアの検討を行った結果、別表のとおりアイデアが採用されることになりました。これらのアイデアは、2007年3月中旬の潜航を中心に行われる予定です。潜航地点は沖縄県石垣島の北約50キロメートルにある「熱水噴出域」となる予定です。実験の成果は後日、Newton誌上で発表します。はたしてどんな実験結果が出るのでしょうか？

採用アイデアの発表者とその内容

いろいろな物体を深海にもっていく 環境汚染の影響を調べる

金子裕樹 / 鈴木将史（加須市立昭和中学校）

こんにゃくなどは高圧下でどうなるか 音の伝わり方に変化はあるか

善住大輔 / 須藤優太 / 平田雄哉 / 磯 和輝（北川辺町立北川辺中学校）

リンゴの味や成分の変化

水と海洋深層水のちがいを調べる

松本 怜 / 並木敬敏 / 駒宮寛子 / 川島裕子（大根町立大根中学校）

炭酸ジュースのペットボトルの変化

岡田貴弘 / 塚越 正 / 川和裕太郎（埼玉県立草加南高等学校）

ペットボトルや缶詰はつぶれるか？

よく振った缶コーラの栓を深海であける

深海の場所ごとの水温のちがいを調べる

ドライアイスを深海に

高森なつみ / 浅見沙也佳 / 望月里紗 / 内藤剛志 / 土橋智裕 / 小林康孝 / 星野陽子（埼玉県立本庄高等学校）

熱水噴出域近傍海底の小型有孔虫の特徴

高浪まどか / 高森早穂利（静岡県立静岡中央高等学校）

海流に乗ってどんなものが運ばれてくるか

金光美奈 / 小野沙織（慶應義塾女子高等学校）

深海底に有孔虫が生息するか調べる

チムニー内部に生物がいるか調べる

高橋久俊 / 芹澤 周（慶應義塾高等学校）

深海魚を探せ

中野美琴 / 西 健太郎（東京都立科学技術大学）

地上/深海「温泉たまご」徹底比較

深海の泥の「農作物栽培」徹底比較

中間真一（社会人）

実験は、状況によっては実施できない場合もあります。



発足会では、深海への理解を深めるため、JAMSTEC施設の見学も行われた。整備のために分解中の「しんかい6500」を前に、参加者は熱心に説明に聞き入った。



1月13日に行われた深海研究室発足会のようす。読者参加者の発表に会場からさまざまな意見が出され、活発な議論が行われた。



発足会の最後には、参加者全員が即席箱の容器に名前や絵などをかきこんだ。容器は潜航時に深海までもっていき、後に参加者に戻される。